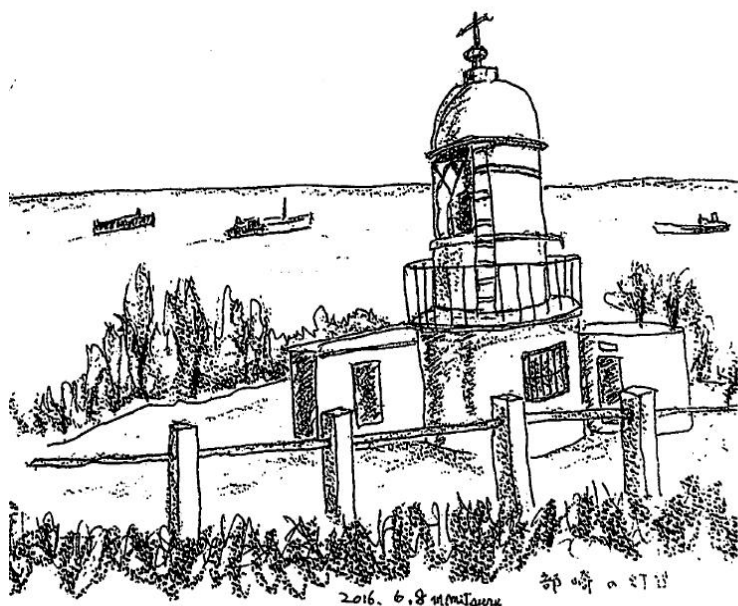


週報2022年7月17日



2022年教会標語聖句

起きよ。光を放て。あなたの光が来て、
主の栄光があなたの上に輝いているからだ。

イザヤ書60章1節

シオン教会信仰指標～人生が変わる！御言葉の光に照らされて～

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2022年7月17日

ピアノ：猪口姉 オルガン：力丸勝子師

司会：吉武姉 献身の祈り：小田姉 メッセージ：力丸嗣夫師

開会の祈り		司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和	
賛美	新聖歌 156「われは主にありて楽し」	
祈 禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！*	
献身の祈り		小田 姉
賛美	新聖歌 208「イエスは愛で満たす」	
賛美	コーラス 35「今こそキリストの愛に应えて」	
聖書朗読	ヨハネの福音書4章 46-53 節	
説 教	「信頼と信仰」	力丸嗣夫 師
応答の祈り		
頌 栄	「主の祈り」	
祈 禱		力丸嗣夫 師

交わりの三省

*互いに愛し合っていますか

*互いに赦し合っていますか

*互いに祈り合っていますか

『信頼と信仰』

ヨハネによる福音書 4章46節～52節



一年ぶりの再会。犬ぞり隊の中継地で、すっかりお近づきになった白熊が、一年ぶりで、返ってきて、再会を喜ぶ北極の熱い物語！

—丹葉暁弥氏の写真集“HUG”から—

交わり	①	互いに愛し合っていますか
の	②	互いに赦しあっていますか
三省	③	互いに祈りあっていますか

『信頼と信仰』

ヨハネによる福音書 4章46節～53節

- 46節： イエスは再びガリラヤのカナに行かれた。そこはかつて水をぶどう酒にされたところである。さて、カペナウムに病気の息子がいる王室の役人がいた。
- 47節： この人は、イエスがガリラヤからカナに来られたと聞いて、イエスのところへ行き、下ってきてイエスに息子を癒して下さるように願った。息子が死にかかっていたからである。
- 48節： そこで、イエスは彼に言われた。「あなた方はしるしと不思議を見ない限り、決して信じない。」
- 49節： その王室の役人は、イエスに言った。「主よ。どうか私の子供が死なないうちに下ってきてください。」
- 50節： イエスは彼に言われた。「帰って行きなさい。あなたの息子は直っています。」その人はイエスが言われた言葉を信じて、帰途についた。
- 51節： 彼が帰って行く途中、その僕たちが彼に出会って、彼の息子が直ったことを告げた。
- 52節： それで父親は、イエスが、「あなたの息子は直っている。」と言われた時刻と同じであることを知った。そして彼自身と、家族の者がみな信じた。

【注】カペナウム(ガリラヤ湖畔)～カナ(ガリラヤ山地)の距離は約30kmあります。大人の足で歩いて一日行程。

福音書を読むとき、聖書にも地図が添付されているなら、それで*位置 *距離 *環境(地理的状況)…などを、心に止めて、物語の推移を、思い巡らすと、より深く福音書メッセージが理解できるのです。今日のテキストとなっている状況は特に、その好例と言えるものです。

父親の思い

*死にかけている子供の父親は、ユダヤの王(ヘロデ)の夏の宮殿の役人でした。ガリラヤ地方では、大変な権力者であり、住民みなに知られた人物でもあったのです。彼の立場からすれば、地方での宗教関係の新しい教えを広めて噂のもととなっている、山地の奥のナザレ出身の、“イエス”の存在は、何の興味もなかった…と、考えられるのが普通の見方でしょう。殊にユダヤ教の世界観の中で、新興宗教的存在として脚光を浴びている、イエス・キリストへの思いは、求道的な思いよりも、警戒心の方が強かったかもしれないのが、自然だと考えられます。

しかし、この物語は、その様な役人としての一人の男ではなく、大切な息子を、死の床に追いやられた状況の下で、奇跡の男“イエス・キリスト”が、カペナウムに來ている…と言う噂を聞いて、わずかな希望を託そうと思立った一人の父親だったのです。

ところが、王宮の奥で執務する役人としての父親は、実際に、行動起こした時には、イエス様は、カペナウムを離れて、山地のカナと言う町へと移動した後でした。従者を連れた彼が、イエス様にお会いできたのは、カペナウムを出発して二日目のことでしょう。

父親とイエス様との出会い

49節：その王室の役人は、イエスに言った。「主よ。どうか私の子供が死なないうちに下ってきてください。」

47節と同じ言葉が語られているのです。しかし、この役人の言葉の中に、彼の心の変化を見ることができます。それは、カペナウムは、王の宮殿がある町です。いわば、夏の首都なのです。とすれば、“上ってきて…”と言うのが、普通の言葉となるはずですが、ところが、“下ってきて…”と言っていますね。ここにこ

の役人の心の変化を見るのです。一人の子供の父親として、イエス・キリスト様に必死ですがる思いで、主の前に出たのです。

その気持ちお分かりですよ。死にかけている、愛する子供を置いて、使いの物を遣わすのではなく、自ら、30kmの山道を登ってきたのですから、彼の心の中は、このお方(イエス・キリスト様)以外に救いはない…と、すがる思いで来たのです。この出来事が起こるまでは、地方役人としての立場から、イエス様の存在に警戒の立場をもって、その動向を見ていたのです。その彼が今や、イエス様をお慕いする思いの一心で、死にかけている息子を置いて(離れて)、イエス様のことを追い求めて、山を登ってきたのです。

イエス様の父親へのチャレンジ

ところが、イエス様はこの父親に言われた言葉は、『あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じない。』何と冷たいお言葉でしょう。この父親は、瀕死の子供を置いて、一日かけてカナまで、駆けつけてきたのです。その間に息子がどのようなになっているか、気が気ではなかったはずですが、そのような焦りの心で潰れそうな父親の上に降りかかった、エス様なお言葉が、『あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じない。』このお言葉をもう一度読み直すと、「ん…？」と、何か違和感を覚えるのです。……………

① 主イエス様の、第一のチャレンジ

お判りでしょうか？ “あなたがたは”という呼びかけです。周りの群衆に向かって言っているわけではないはずですが、それなのに、主が言われたお言葉は、“あなたがたは”と言う複数形の二人称を使っておられるのです。何故でしょう。これはどこまでも、イエス様と心傷んでいる父親との対話なのです。何故…？

“あなたがたは”と言う言葉は、この父親の心の思い(イエス様への信頼度)を確かめるもので、この一言は、この父親の人生を変える、大きな変革の言葉となるのです。

父親のイエス様への言葉は…

「主よ。どうか私の子供が死なないうちに下ってきてください。」

同じ言葉ですが、ここには全く違ったニュアンスを感じるのです。同じ言葉ではありますが、同じ言葉の中に、父親の主イエス様への絶対的信頼(群衆が持つ関心とは異質の)を、変わらない真実を込めて、主に告白しているのです。

② 主イエス様の、第二のチャレンジ

この同じ言葉で迫ってくる父親に対して主イエス様は…

「帰って行きなさい。あなたの息子は直っています。」

「卑しい僕の家を下ってきて、祈り癒してください…！」と言う父親の願いに対する、主のお言葉をどのようにあなたは感じ取りますか。少なくとも、この父親は、イエス様が伴に下ってこられて、家に迎え入れ、息子の傍に立って、厳かに祈ってくださると、考えたとは思われませんか…？

ところが、聖書の記録は、実に淡々とこの様につづっていましたね。イエスは彼に言われた。「帰って行きなさい。あなたの息子は直っています。」その人はイエスが言われた言葉を信じて、帰途についた。…「先生、そんなことおっしゃらないで、ぜひ下ってきて、息子に手を置いて祈ってください。」…

こんな心の思いが、父親にはあったのではないのでしょうか…？

NO! その人はイエスが言われた言葉を信じて、帰途についた。

これこそ、主からのチャレンジに応えた、父親の信仰だったのです。そしてこの父親の信仰こそ、今朝の私たちへの主からのメッセージなのです。

信仰と実証

福音書は更に、次のように記録して、信仰の在り方を明らかにしてくださるのです。

彼が帰って行く途中、その僕たちが彼に出会って、彼の息子が直ったことを告げた。それで父親は、イエスが、「あなたの息子は直っている。」と言われた時刻と同じであることを知った。そして彼自身と、家族の者がみな信じた。ハレルヤ!

父親は、自分が現場(息子の危篤状態の病床)を、離れている間に回復した…と云うことではなく、主のお言葉で、この現実が起こった…と言う、確証をつかんだ…と云うことなのです。彼には、どうしてこの事実が起こったかを一番身に刻んで知る事となったのです。そして、それが、イエス様をメシヤと信じることとなったのです。

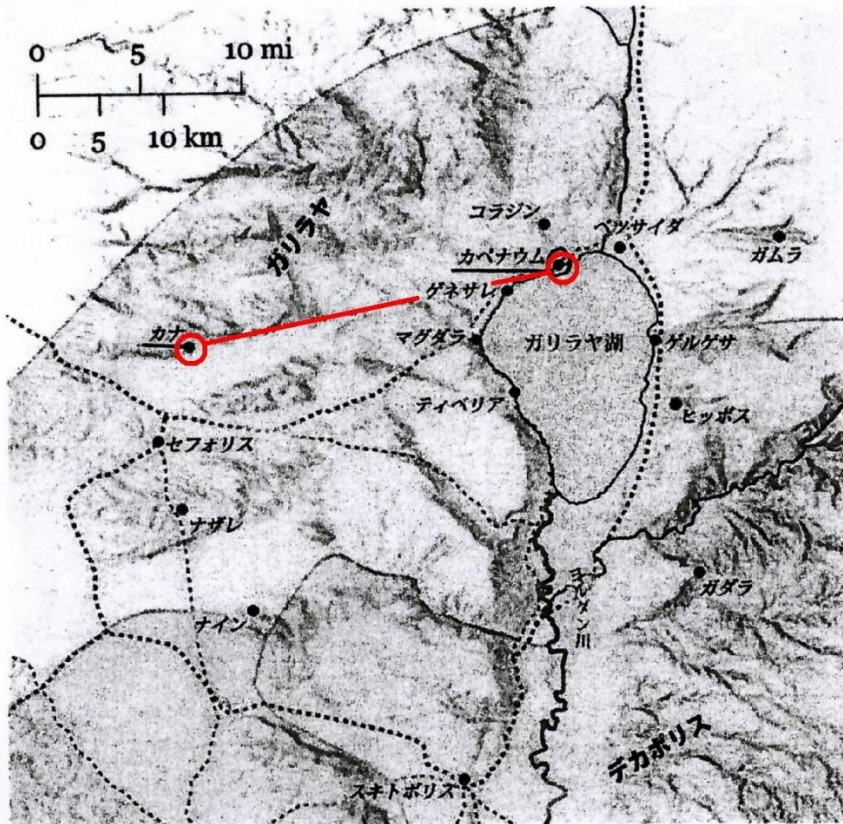
さらにこの先、あの！エルサレムでの十字架の出来事・復活…と、重なる出来事への展開の中で、イエス様を救い主として信じる仲間に加わる道筋が広がったことでしょう。

イエス様が、多くの**御業**(人は奇跡と言う)を行われたのですが、もちろん主の憐れみから出る、お心の顕われであることは言うに及ばないのですが、これらの出来事(御業=奇跡=出来事)は、イエス様を、**神の御子=救い主**と信じる、信仰への導き(導入路)なのだ！と福音書は語っているのです。

【終わりに】

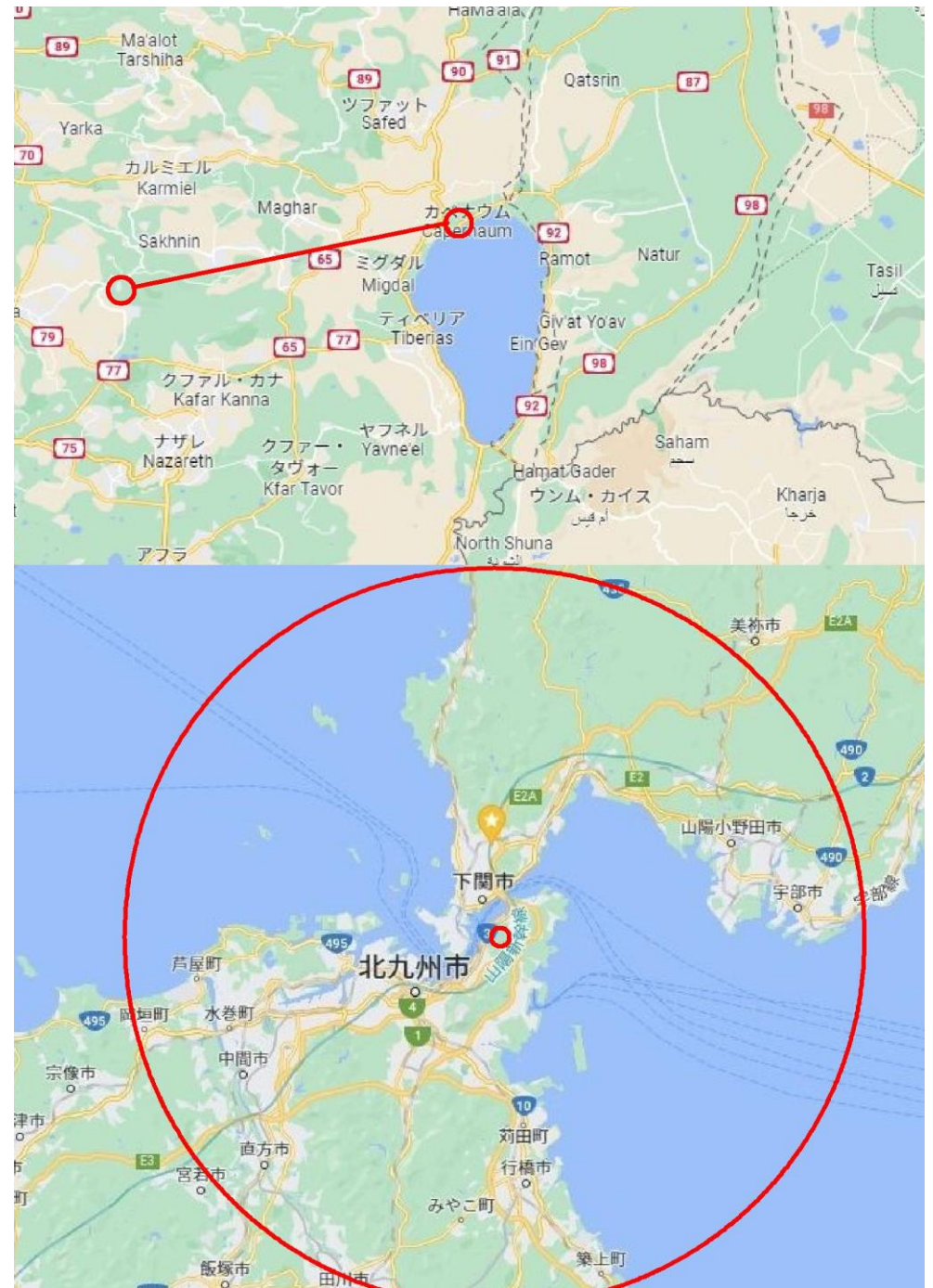
私たちの信仰生活の中で、多くの困難(病・人生の諸問題・受験・困難時・緊急事態)の中にある時に、主イエス様に祈ります。教会に来て、牧師を呼んで、徹夜して、断食して…実はこれらの祈りは、問題解決を目指していながら、主がお導き下さるのは、もっと、主イエス様・神のみ子を知るための道筋なのです。

ガリラヤ地方の地図

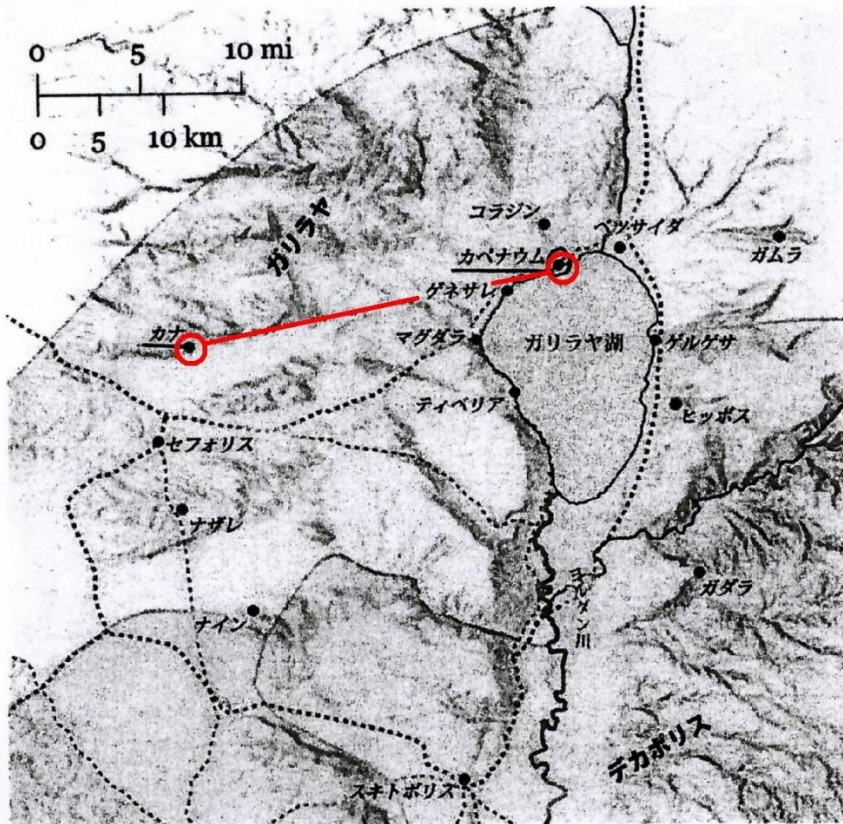


8-4. イエスのガリラヤ宣教 (マタ4:12-25, 15:29; 17:22, マコ1:14-39, ルカ4:14-9:27) イエスはその生涯と宣教の期間のほとんどを、パレスチナ北方の山地、ガリラヤ地方で過ごされた。そして、異邦人行政の中心地であるセフォリスから南に約5.6キロの所にある丘の町ナザレで成長した。イエスは公の宣教を始めるとすぐに、ガリラヤ湖の湖岸にある町カペナウムに移住された。イエスの時代、ガリラヤ湖周辺では漁業が栄えており、イエスの弟子の中にも漁師だった人たちがいた。

カペナウム → カナ... 約 30km



ガリラヤ地方の地図



8-4. イエスのガリラヤ宣教 (マタ4:12-25, 15:29; 17:22, マコ1:14-39, ルカ4:14-9:27) イエスはその生涯と宣教の期間のほとんどを、パレスチナ北方の山地、ガリラヤ地方で過ごされた。そして、異邦人行政の中心地であるセフォリスから南に約5.6キロの所にある丘の町ナザレで成長した。イエスは公の宣教を始めるとすぐに、ガリラヤ湖の湖岸にある町カペナウムに移住された。イエスの時代、ガリラヤ湖周辺では漁業が栄えており、イエスの弟子の中にも漁師だった人たちがいた。

カペナウム → カナ ... 約 30 km

